

令和元年度放射線安全取扱部会年次大会

(第 60 回放射線管理研修会) アンケート調査のまとめ

令和元年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

令和元年 10 月 24 日 (木), 25 日 (金) の 2 日間にわたり, 令和元年度放射線安全取扱部会年次大会が倉敷市芸文館 (倉敷市) にて開催された。年次大会実行委員会では, 参加者の動向を把握し, 今後の部会活動や大会運営の充実を図るため毎年アンケート調査を実施している。今回は, 参加登録者 280 名のうち 138 名から回答を得た (回答率 49.3%)。その結果を以下に報告する。

1 年次大会について

今大会の各イベント運営 (構成, 開催の時期, 会場等) への満足度についての 5 段階評価 (5: 満足, 4: やや満足, 3: 普通, 2: やや不満足, 1: 不満足) 及び大会への意見やコメントの記載をお願いした。

図 1 にそれぞれの評価点 (平均点) を, 図 2 に評価の割合と回答率を示す。

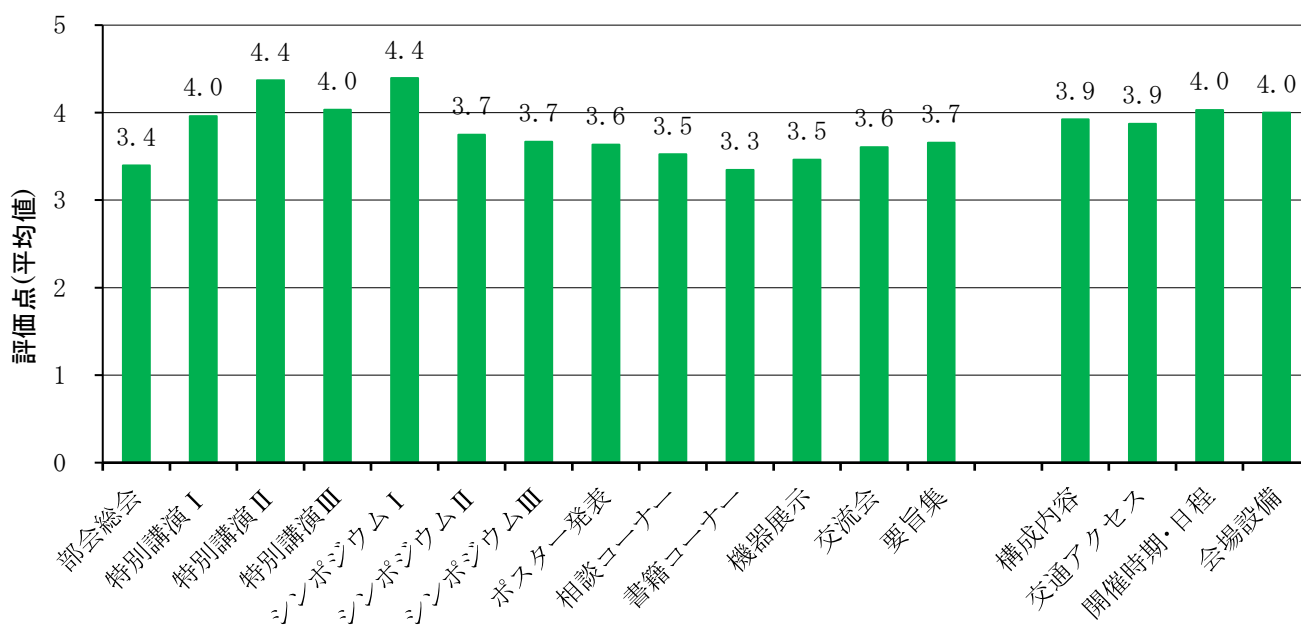


図 1 年次大会各イベント・全般の評価点

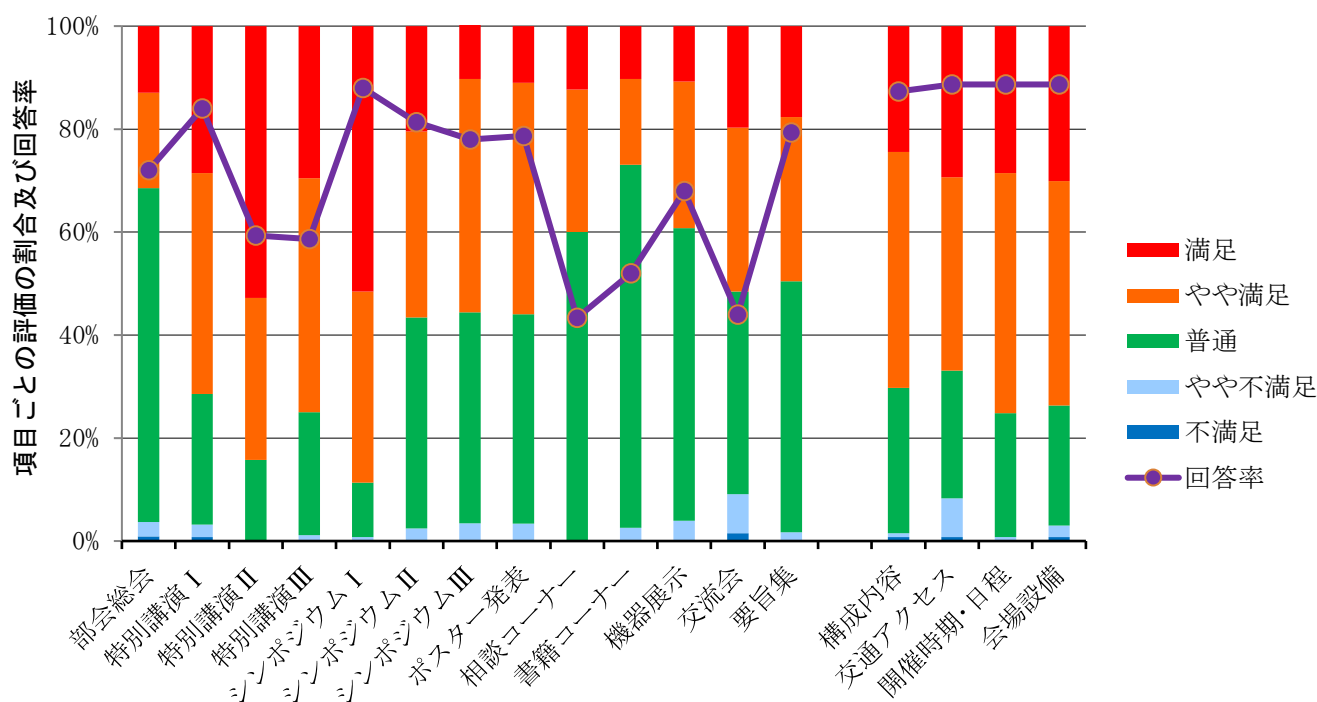


図2 年次大会各イベント・全般の評価の割合（各質問の回答者数に対する割合）及び回答率

1-1 部会総会

評価点は平均 3.4，回答率は 72%で，ほぼ前回と同様であった。

1-2 特別講演Ⅰ 「最近の放射線安全規制の動向」

原子力規制庁の放射線安全審査官の土居亮介氏より，放射線安全規制の動向や今後の規制の見直しについて講演していただいた。講演には最新の動向が取り入れられ，有意義で内容が濃い印象だった。アンケートでの評価が高く，回答率は 84%，評価点は平均 4.0 であった。コメントではスライドの差替部分の配付を望むもの，防護の情報を望むもの等があった。

1-3 特別講演Ⅱ 「地球惑星物質総合解析システム (CASTEM) の構築と応用：小惑星イトカワ・チェリヤピンスク隕石・はやぶさ 2」

岡山大学惑星物質研究所の中村栄三氏に最先端の宇宙科学の話題を提供していただいた。自作のドラフトからスタートした解析システムを用いたお話は，興味深く引き込まれる内容であった。2 日目午後の時間帯であったため，回答率は低くなったが，評価点は高く，平均 4.4 であった。

1-4 特別講演Ⅲ 「原子科学の父仁科芳雄と郷里岡山」

岡山大学の小野俊朗氏に日本アイソトープ協会の生みの親でもある仁科芳雄博士について同郷の立場から講演していただいた。多彩な逸話を織り込み，「仁科芳雄博士の夢や遺産が脈々と受け継がれている」とのまとめの言葉には響くものがあった。最後の講演で回答率は低くなったが，評価点は平均 4.0 であった。

1-5 シンポジウムⅠ 「放射線事故の初動対応を考える」

実際の事例を経験した事業所から演者を招き，事故時の初動対応について講演していただく企画であ

った。事故等への備えはすべての事業所で重要な課題であるので、大変参考となるシンポジウムであった。アンケートでの評価は最も高く、回答率は88%、評価点は平均4.4であった。コメントでも講演内容のweb等での公開を望むもの、持ち帰り課題を検討したいというもの等、評価する内容が多くあった。

1-6 シンポジウムⅡ 「人形峠ウラン開発の歴史と現状」

岡山での開催ということで、地の利とテーマに合わせ企画したシンポジウムであった。演者にはそれぞれの立場からウラン開発にまつわる話題を提供していただいた。人形峠の歴史と課題がよくまとめられた内容であった。回答率は81%、評価点は平均3.7とまずまずの結果であった。

1-7 シンポジウムⅢ 「RI 規制法への対応事例」

法令改正後の運用についての課題を明確化する目的で企画したシンポジウムであった。予防規程、教育訓練、防護についてそれぞれ話題を提供していただいた。管理業務に直結する話題でもあり、高い関心が寄せられ、コメントも多くいただいた。回答率は79%、評価点は平均3.6であった。コメントでは、大学以外の施設の話も聞きたい、防護の情報を知りたいなどの意見が寄せられた。

1-8 ポスター発表

24件の発表があり、評価点は平均3.6であった。演題数が少なかったため、発表を前後半に分割しなかったことに対する批判的コメントをいただいた。これについては、次回以降の改善点としたい。

1-9 相談コーナー

19件の相談があり、評価点は平均3.5であった。

1-10 書籍コーナー

回答率は52%、評価点は平均3.3であった。

1-11 機器展示

13社の出展があり、評価点は平均3.5であった。ポスター会場と同じ場所で立ち寄ってもらいやすいと出展側には好評であった。

1-12 交流会

狭い会場であったため定員を設定しての開催であった。イベントとして岡山の話題を取り上げたクイズ大会を開催した。評価点は平均3.6とまずまずの評価を得た。

1-13 要旨集

役に立つ資料ばかりなので、紙媒体だけでなく、電子ファイルによる配付を要望する意見がいくつかあった。また、今回も、講演要旨にスライド資料掲載のないものについては、後日でも何らかの形で公開していただきたいとのコメントがあった。評価点は平均3.7であった。

1-14 見学会

アンケート項目にはないが、大会前日に人形峠環境技術センターの見学会を開催し、31名の参加があった。

1-15 運営について

構成内容について、評価点の平均は3.9で、「申し分ない内容でした」、「RI関係の話と、研究の話、両方聴くことができたので充実していた」等の評価する意見をいただいた。一方、年次大会の開始時間をずらし、総会の時間を昼食時間としたことに対しては批判的コメントをいただいた。テーマについては、今回は予防規程の提出期限後の開催ということで、残りの課題である防護（セキュリティ）について情報や議論を希望するコメントを多くいただいた。また、人材育成や人材確保の課題、施設の縮小・

廃止、防護の立入検査、大学以外の研究施設の話、事故時の対応方法、実務面での有用な情報提供、日常の点検や測定を便利にする方法など興味のあるテーマとしてあげられた。

今回の年次大会は、観光地の倉敷での開催となったが、交通アクセスについては微妙に遠いとのコメントをいただいた。また、昼食休憩の時間が短かったことに対する苦情のコメントもいただいた。これらも今後の改善の参考としたい。それぞれの評価は、構成内容の評価点が平均 3.9、交通アクセスの評価点が平均 3.9、開催時期・日程の評価点が平均 4.0、会場設備の評価点が平均 4.0 であった。支部持ち回りでの開催を評価する意見は多いが、東京・大阪での開催頻度を多くしていただきたいとの意見もあり、参加しやすさを考えるとそのような検討も必要と思われる。

2 放射線安全取扱部会の活動について

2-1 興味のあるテーマ

興味のあるテーマとして選ばれたものを図3に示した。最も多かったのは「教育訓練」、次いで「緊急時の対策」を挙げ、それぞれ約半数の選択があった。以下、「放射線利用」、「社会貢献」、「安全管理状況の点検」、「設備・機器の品質管理」、「記帳・記録」が関心の高いテーマとして続いた。

これ以外の自由記載では、「放射化物の処分（サイクロトロン施設の解体）」、「2007ICRP 勧告の取入れ」、「防護の情報」、「被曝線量評価（実測・計算・バイオドジメトリ）」等の記載があったほか、「外部被曝を伴う傷病者を受け入れられる医療機関に関しては、国の介入なくしては進まないと考える。この点に関し、規制庁の動きのトリガーと成り得るようなテーマを挙げていただければ」といったコメントが挙げられている。

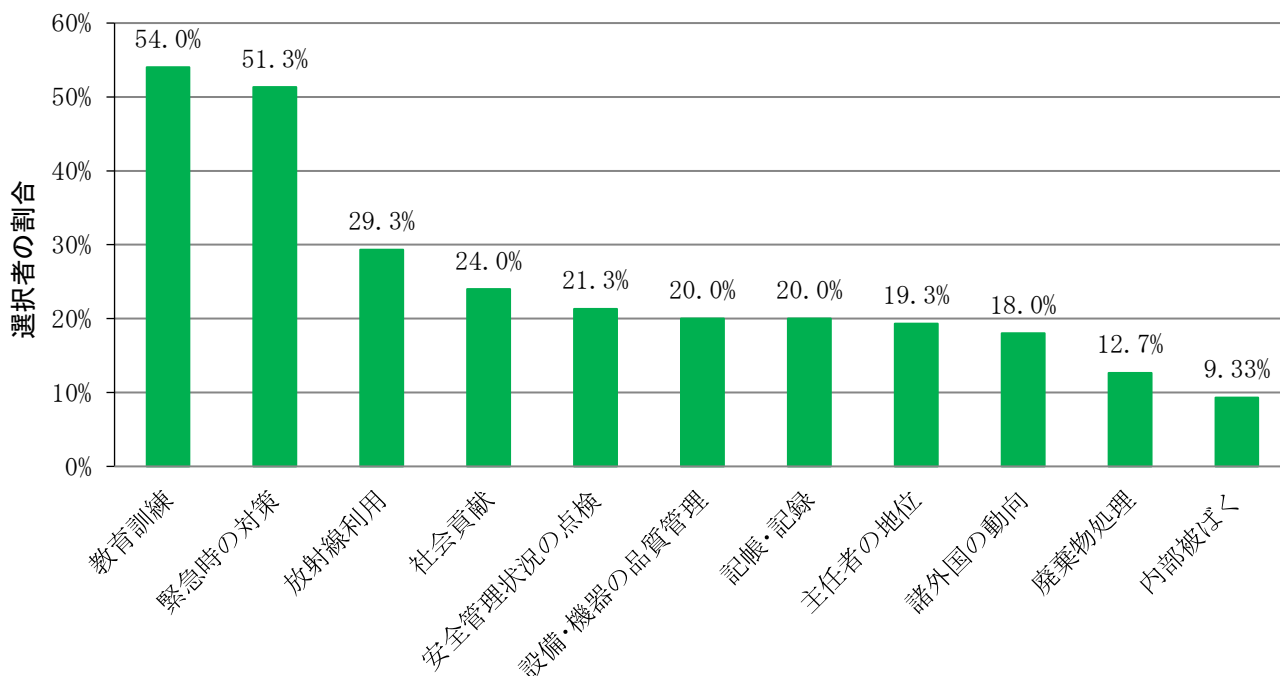


図3 興味のあるテーマ

2-2 教育訓練

開催頻度については、96%が適切を選択している。また、講習内容については93%が適切としていた。自由記載には、「必要最小限の講習（トータル2時間）を実施しては？」とのコメントが寄せられた。支部の活動（教育訓練講習会）自体を知らないとのコメントがあり、より積極的な広報の必要性がうかがわれた。

2-3 部会活動全般について

有意義な時間であったとの肯定的なコメントを多くいただいたが、より実務的な内容を望むコメント、若手の参画を促す活動や、次世代への伝承行う活動を希望するコメント等も寄せられた。

3 参加者について

3-1 年齢、性別

年齢構成は、20歳代4%、30歳代13%、40歳代23%、50歳代37%、60歳代以上23%であり、50歳代以上が約半数を占める（図4）。性別比では、男性86%、女性14%であった。

3-2 所有免状、身分について

複数回答は加算して集計している。所有免状は、第1種放射線取扱主任者が83%で大半を占める。以下、第2種放射線取扱主任者3%、薬剤師6%、その他（作業環境測定士、診療放射線技師、技術士等）1%であった（図5）。

身分は、事業所長1%、管理職21%、一般職32%、教育研究職24%、医療従事者1%、放射線技師4%であった（図6）。また、日本アイソトープ協会会員は64%、放射線安全取扱部会会員は56%であった。

3-3 参加頻度

参加頻度は、毎年参加が59%、隔年が4%、時々が21%、初めてが16%であった（図7）。

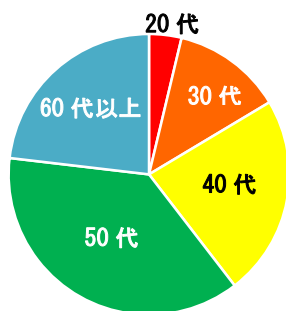


図4 年齢構成

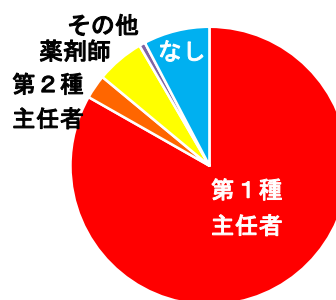


図5 所有免状

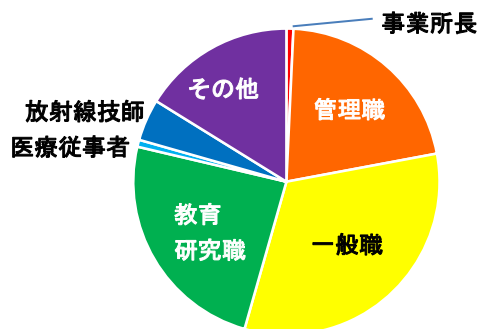


図6 身分

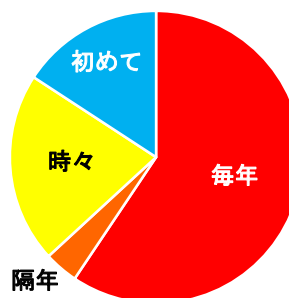


図7 参加頻度

4 参加者の所属事業所について

4-1 事業内容

医療機関が 7%，教育機関が 42%，研究機関が 25%，民間企業が 22%であった（図 8）。

4-2 使用形態

複数回答は加算している。許可使用が 85%で大部分を占め、以下、届出使用が 4%，販売業が 3%，廃棄業が 2%であった（図 9）。

4-3 施設

複数回答は加算している。非密封が 44%，密封が 26%，放射線発生装置が 16%，設計認証機器が 7%，非破壊検査が 1%であった（図 10）。

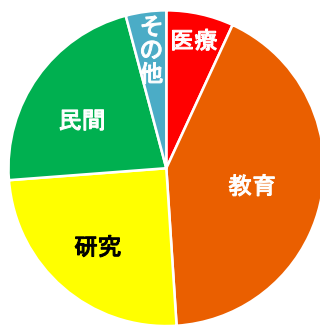


図 8 事業内容

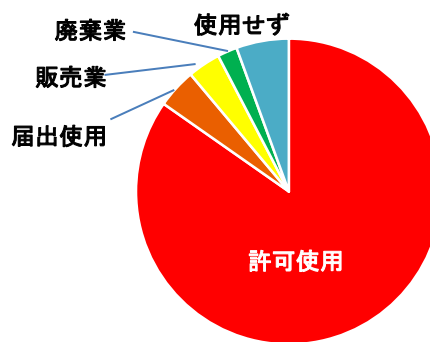


図 9 使用形態

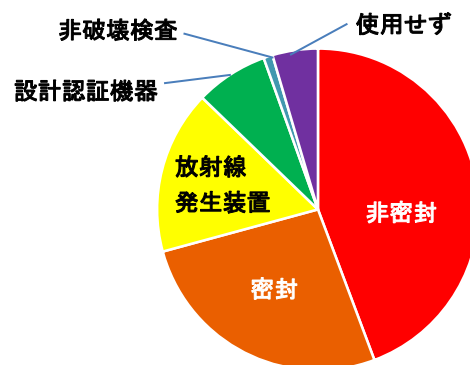


図 10 施設の種類

4-4 所在地

北海道 2%，東北 10%，関東 38%，中部 14%，近畿 20%，中国・四国 11%，九州 5%であった（図 11）。

4-5 放射線業務従事者数

20 人以下が 17%，20～100 人が 44%，100～300 人が 26%，300 人以上が 13%であった（図 12）。

4-6 選任主任者数

1 人が 31%，2 人が 39%，3 人が 17%，4 人が 4%，5 人以上が 8%であった（図 13）。

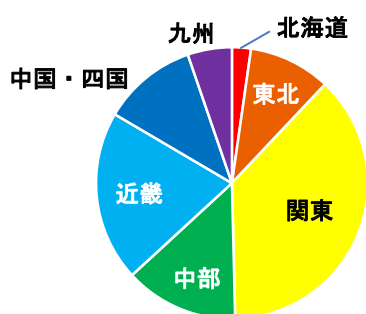


図 11 所在地



図 12 放射線業務従事者数

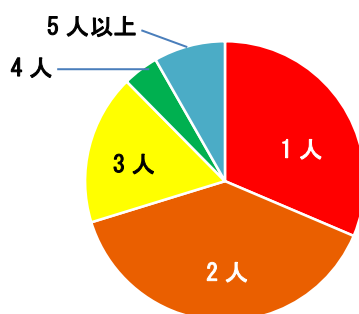


図 13 選任主任者数

おわりに

今回の年次大会は、中国・四国支部が担当し、岡山県倉敷市での開催となりました。テーマを「現在と過去を整理するのは、未来のためだ」とし、令和の新時代に向け、法令改正後のひと区切りとなるような大会をめざしました。テーマに採用した大原氏の言葉以外にも、氏には生産性の向上(業務の改善)を化学反応に例えた言葉があります。化学反応を起こすにはかき混ぜないとはいけませんが、年次大会には成功であれ、失敗であれ、そのような化学反応を起こすための、かき混ぜる役割があると思います。アンケート結果のまとめをご覧になり、参考にいただければ幸いです。

倉敷市の美観地区という場所で開催した大会に、280名の方々が参加していただき、開催場所について一定の評価をいただきましたが、微妙に遠いとのこと意見も頂戴いたしました。大会運営では至らない点につきまして、多数の貴重なご意見を賜り、ここではすべてを紹介できませんでしたが、回答いただきましたコメントは真摯に拝承し、次回以降の大会実行委員会に引き継ぎ、より充実した年次大会の開催運営に役立ててまいります。

末筆になりましたが、大会にご参加いただいた皆様、アンケートにご回答いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

(花房直志)